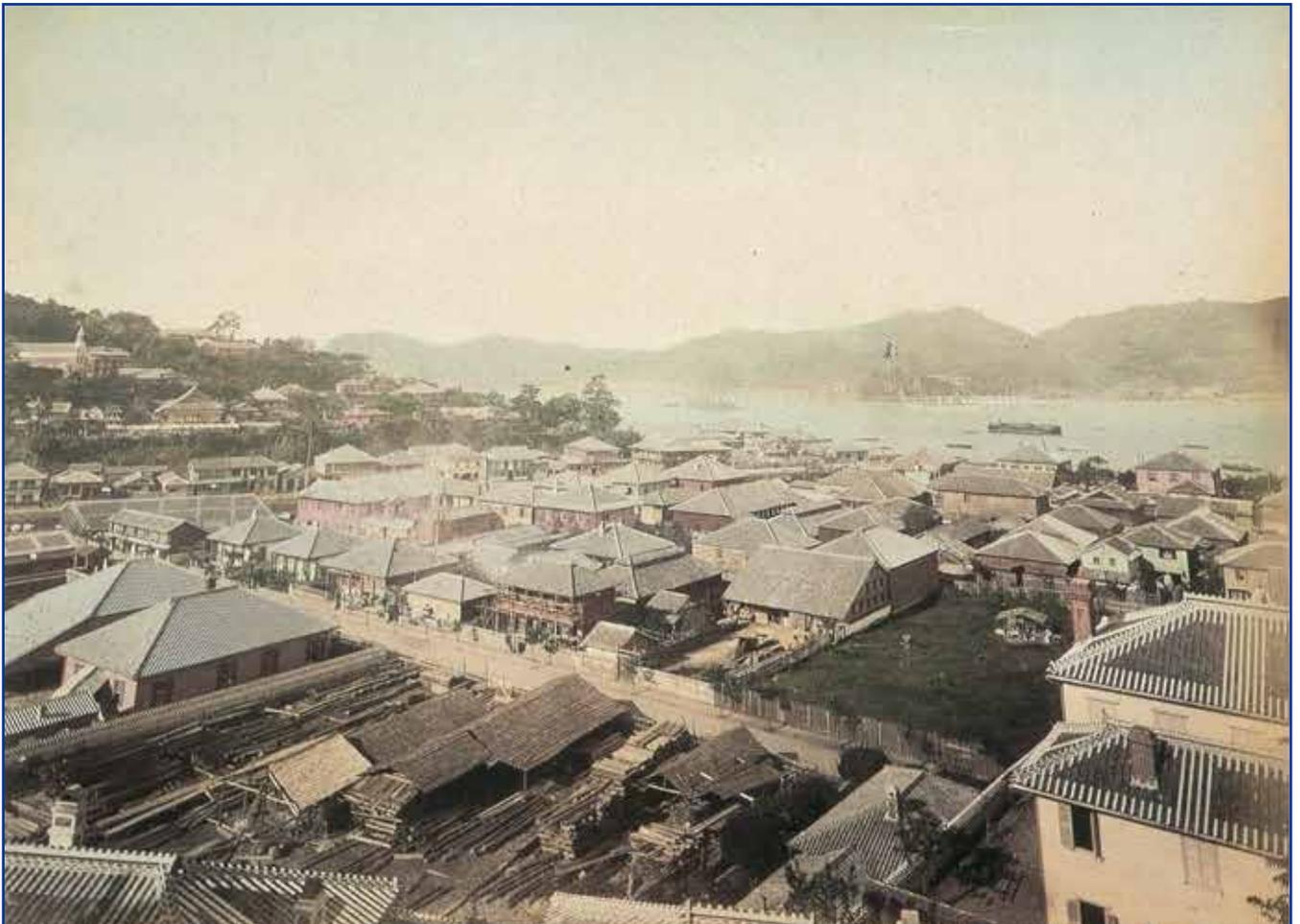


長崎日英協会会報

THE NAGASAKI

# BUND

## 大浦居留地と南山手



左上の大浦天主堂の右側下に見えるのが最初の英国領事館になった妙行寺である。中央の左側には孔子廟の表門が見える。明治31年に開業した下り松の長崎ホテルはまだ見えないので、明治20年（1880年代）頃の撮影と思われる。

（写真：横浜開港記念館所蔵）

2015・6  
vol. 18

## 平成26年度理事会・通常総会開催



平成26年度理事会

総会では平成26年度の事業計画、予算等の各議案が審議され承認されました。総会後の講演会では長崎市国際課国際交流員でロンドン出身のセーラ・スクラー様に「現代Britainを知りましょう!」という演題で、王室や国名のこと、スコットランドの独立問題などについて若い視点でとらえた現代の英国についてご講演いただきました。

平成26年6月6日(金)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて長崎日英協会の平成26年度の理事会と通常総会を開催いたしました。通常総会には約50名の会員が出席され、総会の冒頭で篠原会長は「平成27年度はグラバー園開園40周年記念事業への協力を中心とした活動を行いたい。また在大阪英国総領事館のマイケル・シアラー総領事の招聘を行いたい。」と挨拶されました。



平成26年度通常総会

## 第18回日英協会全国大会へ出席

平成27年3月18日(水)英国大使館に於いて第18回日英協会全国大会が開催されました。全国から13の日英協会が出席、長崎日英協会からは安田事務局長が出席いたしました。大使公邸に於いてヒッチンズ大使主催の昼食会が開催され、会の冒頭で大使は「各協会の草の根的な交流が今日の健全な日英関係の礎となっています。」と日頃の各協会の活動に感謝の意を表されました。昼食後、福岡日英協会の久保田会長が参加協会を代表してお礼のご挨拶をされました。

その後会場を移し、ジュリア・ロングボトム公使にご出席いただき、ビジネスセッションが開催され、熊本日英協会と北海道日英協会から各々活動状況の報告がありました。



平成26年度全国大会参加者

### 参加された日英協会

北海道日英協会	旭川日英協会	岩手日英協会	東京日英協会	愛知日英協会
静岡日英協会	関西日英協会	広島日英協会	山口日英協会	福岡日英協会
長崎日英協会	熊本日英協会	鹿児島日英協会		

## 第20回三浦按針忌へ出席（平戸市）



慰霊祭の様子



平成26年5月25日（日）平戸市にて徳川家康の外交顧問として活躍した英国人三浦按針の遺徳を偲ぶ按針忌が国際交流HIRAの会の主催で平戸市崎方公園で開催されました。本年は按針忌としては20回目の慰霊祭で、また按針生誕450年の節目の年でもありました。在大阪オランダ総領事館からローデリック・ウォルス総領事や大分県臼杵市から田村副市長など按針に係る関係者約80名が参加、長崎日英協会からは篠原会長が出席いたしました。

## 長崎市国際交流員セーラ・スクラーさん（ロンドン出身）イギリス料理体験教室開催



イギリス料理の講話



コーニッシュ・パステイ

平成26年11月30日（日）長崎市民会館調理実習室に於いて、長崎市国際交流員セーラ・スクラーさん（ロンドン出身）によるイギリス料理体験教室が開催され市民の方々14名が参加されました。今回の料理教室ではイングランドコーンウォール州発祥のCornish Pasty「コーニッシュ・パステイ」という具入りのタルト作りに全員でチャレンジしました。「コーニッ

シュ・パステイ」は以前は炭鉱で働いていた人達や農家の人達のお弁当として職場で食べられていました。現在ではイギリスの一般家庭で昼食やおやつとして食べられています。教室内ではスクラーさんのユーモアあふれる指導の下、日本、イギリス両国の文化の違いについて触れるなど、終始穏やかな雰囲気の中、料理を通しての日英交流のひと時を過ごしました。



料理指導の様子

## ながさき異文化ちゃんぽんフェスタへ出展 ～バグパイプ演奏体験&キルト試着～

平成26年12月20日（土）長崎ブリックホールに於いて「2014ながさき異文化ちゃんぽんフェスタ」が開催されました。これは長崎市内に在住するいろいろな国の留学生や研修員の方々が互いの文化を披露して市民との国際理解や国際交流を深めるもので、当日は米国、中国、アフリカ等の国々から9ヶ国の外国人が自国の文化を披露、会場には約500名の市民が来場して異国文化の体験を楽しんでいました。長崎日英協会では英国ブースを設置して、本場英国の紅茶お菓子を味わいながらスコットランドのバグパイプ演奏体験や民族衣装キルトの試着などを楽しんでいただきました。



バグパイプ演奏体験



バグパイプステージ演奏

## 第35回グラバー顕彰式へ出席

平成26年9月20日(土)、グラバー園内トーマス・ブレイク・グラバー像前に於いて、長崎市主催の「第35回グラバー顕彰式」が開催されました。これは我が国の近代化に大きな役割を果たしたトーマス・グラバー氏の功績を称えるもので長崎市の田上富久市長を初め、グラバーや居留地関係者の方々が出席されました。

長崎日英協会からは篠原会長と安田事務局長が出席いたしました。式典では市歌斉唱、献花の後、長崎居留地キッズコーラスによる「わたしと小鳥とすず」と「君は愛されるために生まれてきた」の2曲と居留地男性合唱団による「スタンド・アローン」の計3曲が披露され、式典を盛り上げました。当日は多くの観光客も来園し、港を見下ろすグラバー邸庭園のポールにスコットランド旗が誇らしくはためいていました。



献花をされる篠原会長



長崎居留地キッズコーラスの皆さま

## グラバー園開園40周年記念シンポジウムに後援

平成26年10月24日(金)旧香港上海銀行長崎支店記念館に於いて(株)長崎文献社主催の「グラバー園開園40周年記念～『リンガー家秘録』出版記念シンポジウム」が開催されました。

第一部の長崎総合科学大学のブライアン・バークガフニ教授のご講演の後、第二部のシンポジウムでは、パネラーに講演者のブライアン教授の他、長崎市の田上市長、長崎歴史文化博物館の大堀館長をお迎えし、司会コーディネーターは(株)長崎文献社の堀専務が務められました。テーマは「長崎居留地とリンガー家」という内容で長崎居留地の歴史とリンガー家が果たした日本の近代化、長崎への貢献について興味深いお話を多く聞くことができました。会場では約100名の一般市民の方々が熱心に聴講されました。



講演をされるブライアン・バークガフニ教授



シンポジウムの様子

## マイケル・シアラー総領事歓迎昼食会開催 ～英国からの国際交流員を交え～

平成26年10月24日（金）に在大阪英国総領事館のマイケル・シアラー総領事がグラバー園開園40周年記念レセプションへ出席の為長崎を訪問されました。シアラー総領事は中村知事、田上市長の表敬訪問に加え長崎日英協会役員との意見交換会にもご参加いただきました。意見交換会には、協会から篠原会長、鈴木副会長、村木副会長、安田事務局長が参加、英国からの国際交流員エイミー・ギフッドさん（長崎県）、セーラ・スクラーさん（長崎市）も参加し、日本と英国、長崎とアバディーンとの交流事業について積極的な意見交換を行いました。また、夜にはグラバー園のイルミネーションを散策しながら鑑賞されました。



長崎日英協会役員・国際交流員とシアラー総領事



夜にグラバー園のイルミネーションを見学

## グラバー園開園40周年記念レセプション開催 在大阪英国総領 マイケル・シアラー総領事来崎

平成26年10月24日（金）にANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて長崎市主催のグラバー園開園40周年記念レセプションが開催され、在大阪英国総領事館よりマイケル・シアラー総領事が来賓としてご出席され、ご挨拶の中で「日英友好の象徴として地域の活性化に貢献し続けることを強く願います」と述べられました。その他レセプションには、経済団体、旅行代理店など関係者約150名が参加され節目の年を祝いました。



ご挨拶をされるマイケル・シアラー総領事



ご挨拶をされる田上市長

### グラバー園開園の歴史

- 1859年（安政 6年）グラバー 上海から長崎に到着。
- 1863年（文久 3年）グラバー邸建設。
- 1939年（昭和14年）倉場富三郎 グラバー邸を三菱に売却。
- 1945年（昭和20年）グラバー邸 米進駐軍将校の住まいとなる。
- 1950年（昭和25年）長崎造船所 グラバー邸の所有権を取り戻す。
- 1957年（昭和32年）三菱造船（株）[現三菱重工業（株）長崎造船所]がグラバー邸を長崎市に寄贈。
- 1961年（昭和36年）グラバー邸 国の重要文化財に指定され、「旧グラバー住宅」が正式名称となる。
- 1965年（昭和40年）長崎市フレデリック・リンガーの子孫からリンガー（弟）邸を購入。
- 1966年（昭和41年）リンガー（弟）邸が国の重要文化財に指定され、「旧リンガー住宅」正式名称となる。
- 1970年（昭和45年）川南造船よりリンガー（兄）邸を取得。
- 1972年（昭和47年）リンガー（兄）邸が国の重要文化財に指定され「旧オルト住宅」が正式名称となる。
- 1974年（昭和49年）「仮称長崎明治村」を「グラバー園」に改称

## トーマス・グラバー奨学生アンドリュー・ツウイディーさんからのレポート ～アバディーン市在住～

Impressions of Nagasaki From the Viewpoint of a Thomas Glover Scholar

My name is Andrew, I am currently a final year law student, and I came to be in Nagasaki this summer through the Thomas Glover Scholarship Award founded by Rotary clubs in Nagasaki and Aberdeen. The main aims of the scholarship are to share cultural experiences in order to better relate to one another, and to strengthen business ties between the two cities following in the legacy of Thomas Glover. I spent three weeks in Nagasaki and in that time I became very fond of the city.

Nagasaki is a interesting and vibrant place where ancient traditions comfortably reconcile with modern culture. What stuck in my mind upon arrival was not only how much better the weather was, but also how visually stimulating Nagasaki is and how enthusiastic Japanese people are. It was fascinating to see bright and colourful advertisements everywhere, food is a form of art, and it was intriguing to see an abundance of city gardens and sites of cultural heritage frequented often by locals as well as tourists.

While Nagasaki is a city as far away from Aberdeen as one can imagine, everyone I met received me with such warmth and familiarity that I felt the city became a home from home. From the very beginning of my stay the people were very amicable and so kind to me that I settled into the local lifestyle with ease. Throughout the duration of my visit my friends in Nagasaki got me involved in many aspects of Japanese culture to which I most grateful. In three weeks I experienced a multitude of speciality dining (all of which was delicious except for natto), I visited ancient shrines, I enjoyed unique festivals, I participated in traditional arts and crafts, I learnt about Japanese innovations past and present, and I was even treated to a wide range of leisure activities. Despite some obvious nuisances of Japanese culture- like the superior diet for example- I felt that the day to day lives of Japanese people bore a striking resemblance to the way of life in Aberdeen. Spending time with my host families quickly revealed to me that many Scots and Japanese share the same sense of humour and compassion, we also enjoy doing the same kind of things, and of course many of us share the same affinity for alcohol.

During my stay in Nagasaki I met many people and I stayed with several host families. I came to Nagasaki as a special guest and a representative of Aberdeen, at certain times I was also a teacher, but in the end it was clear to me that I would leave Nagasaki as a friend.

Andrew Tweedie

私はアンドリューと申します。現在法学部の4年生です。

私は昨年夏にアバディーンと長崎の両ロータリークラブの奨学生として長崎に来ました。この奨学金制度の主な目的は、トーマス・グラバーの遺志を受け継ぎ、両市の関係をより良いものにまたより深いビジネス関係を構築するために文化を共有するという事です。私は3週間を長崎で過ごし、この町がとても好きになりました。長崎はとても面白くて、活気がある町だと思います。なぜなら、伝統的な文化と近代的な文化が程よく調和しているからです。私は長崎に到着した瞬間、イギリスより気候が良いと感じましたが、他に長崎はどんなに刺激的な街なのだろうか、どんなに熱狂的な日本人なのだろうか？と興味が湧いてきました。町の至る所にある光り輝く色鮮やかな広告や芸術的な料理はとても魅力的でした。そして住民の他にも多くの観光客で賑わっている文化遺産や庭園はとても興味深かったです。皆さまご存知のように、長崎

はアバディーンから遠く離れたところにありますが、私がお会いした皆さまは私に家族の一員のように暖かく、優しく接してくださいました。まるで故郷から故郷へ来たような懐かしい感じがしました。滞在初日から皆さまがたからとても友好的に親切に接していただいたのですぐに長崎の生活に慣れることができました。滞在中に長崎の友人たちはさまざまな日本文化を教えてくださいました。私はとても感謝しています。私は3週間の間にたくさんの美味しい料理(納豆を除く)を食べたり、古い神社を訪問したり、楽しいお祭りに参加したり伝統的な芸術や工芸に挑戦したり、日本の革新的な過去、現在について学びました。それはとても有意義な時間でした。私は日ごとに、長崎での生活はアバディーンの生活スタイルと似ていると感じてきました。私はホストファミリーと一緒に過ごす中で、スコットランド人と日本人は同じユーモア感覚や優しさを持っているのだと感じました、お酒の宴席も似ており、さまざまな出来事を共有して楽しむことができました。長崎滞在中に多くの人々や他のホストファミリーにお会いしました。私は当初はアバディーンを代表し特別な客として来崎し講師なども勤めましたが、長崎を離れる時はすっかり皆さまの親しい友人となっていました。



ツウイディーさんの送別会 長崎ロータリークラブ主催



## アバディーン市財政事務官ラトネイエケ氏来崎

平成27年2月23日(月)に、スコットランド・アバディーン市より、財政事務官のヤサ・ラトネイエケ氏が長崎市の田上市長を表敬訪問されました。今回の来日の目的は、2月25日(水)～27日(金)に東京で開催される第11回国際水素・燃料電池展(Fuel Cell Conference)に参加する為の来日で、事前に市民友好都市関係にある長崎市を訪問されたものです。ラトネイエケ氏は昨年続く来崎で、今回は稲佐山から市街地を眺められたり、世界遺産候補の三菱重工のジャイアント・カンチレバーなどを視察されたり、海洋クラスター関連の方々と面談されるなど、積極的に長崎の関係先を訪問されました。



田上市長を表敬訪問

## クリスマスパーティ長崎日米協会と合同開催

平成26年12月4日（木）、ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて恒例の「クリスマス夜会2014」を長崎日米協会と合同で開催いたしました。当日は長崎日英、日米両会員約70名、長崎在住の英米人約70名の計140名が参加、ご来賓として長崎市の田上市長、長崎日英協会側から在北九州英国名誉領事館のローレンス・チーヴァス名誉領事が、長崎日米協会側から在福岡米国領事館のユーリ・フェッジキフ首席領事がご参加され、たいへん華やかなパーティとなりました。NBC長崎放送の塚田恵子アナウンサーとロンドン出身の長崎市国際交流員セーラ・スクラーさんとの息のあった司会進行の下、ディキシージャズバンド「長崎ホットショット」の軽やかなジャズ演奏が始まり、プレゼント抽選会の時間になると会場の雰囲気は最高潮に達し、抽選番号が発表されるたびに会場からは歓声が上がり大いに盛り上がりました。今回も、日英、日米の垣根を越えて楽しい時間を共有することができました。



軽快な進行 塚田アナとスクラーさん



ご来賓のローレンス・チーヴァス名誉領事（中央の長身の方）

## 「ナガサキホテル」英国ゆかりの食器～奈良から105年ぶりに里帰り

英国人実業家のフレデリック・リンガーは明治時代に南山手の海岸通りに3階建ての豪華なホテルを建設しました。「ナガサキ・ホテル」と名付けられたこのホテルは当時「東洋一の豪華なホテル」と謳われていました。1908年（明治41年）に同ホテルが廃業した際にホテルで使われていた食器120セットが「奈良ホテル」に売却されたわけですが、その後その食器は永らく行方不明となっていました。このたび、その食器類とみられるナイフ、フォーク、スプーンなどが見つかり、食器はすべて英国王室御用達の「マッピン&ウェップ」社で造られたものと判明しました。そして平成26年11月27日（木）・28日（金）にANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルにてその食器をお借りしてのグラバー園開園40周年記念晩餐会が開催されました。長崎と英国とのゆかりの食器は105年ぶりに里帰りできました。



里帰りした食器



記念晩餐会準備

～駐日英国大使館職員紹介～

# ジュリア・ロングボトム公使



ジュリア・ロングボトム Julia Longbottom  
駐日英国公使 (2012年8月に就任)

1986 ケンブリッジ大学卒業 (現代言語を専攻)

1986 英国外務省入省

1987～1988

在ニューヨーク国連英国政府代表部、在ブリュッセル欧州委員会に短期間出向

1989～1993 駐日英国大使館二等書記官 (政治担当)

1994～1997 英国外務省香港部国籍・移民課長

1998～2002 在オランダ (ハーグ) 英国大使館一等書記官 (EU/政治担当)

2003～2006 在ポーランド (ワルシャワ) 英国総領事; 英国大使館UKTI部長 兼 参事官 (EU/経済担当)

2006～2009 英国貿易投資総省 (UKTI) 戦略・人事部長

2009～2011 英国外務省極東部長

2011～2012 英国外務省中国部長

○既婚、夫との間に3人の子供 (結婚後の姓: Sciver) 趣味: ランニング、テニス、スキー  
外国語: 日本語、フランス語、オランダ語、ポーランド語

～長崎の英国人～

# こんにちは! ジェームズです



ジェームズ・ボーン James Vaughan

●プロフィール

英国・ロンドン出身 2014年来崎

現在は小中学校の英語教師として勤務

●日本に興味を持ったきっかけ

高校生の歴史の授業で江戸時代について学習した時、日本史について興味を持ち、勉強するようになり、日本で教師になることを決めました。

●日本の好きな物・食べ物

来崎して初めてカラオケへ歌いに行った時に「飲み放題」を知り、興味深く感じました。カラオケは今でも大好きです。特に「演歌」が好きです。

故郷であまり食べる事ができなかった寿司・ラーメン・刺身・納豆は、今となっては私のお気に入りの食べ物です。他にも、長崎名物のちゃんぽんは大好きです。故郷では味わえない上質の味を堪能できて、とても満足しています。



## 編集後記

○ラグビーワールドカップが2019年に日本で開催されます。試合会場が全国で12ヶ所決まりましたが、残念ながら長崎は選ばれませんでした。ラグビーは1823年に英国イングランドの有名パブリックスクールラグビー校でフットボール (サッカー) の試合の最中にボールを手を持ってゴールを目指したことに始まります。

英国発祥のスポーツらしく、世界ランキングでもイングランド、ウェールズ、スコットランドの英国チームは常に上位に入っています。日本はスコットランドに次いで現在11位です。ぜひ長崎が英国チームの試合前合宿地として選ばれたらいいですね。

編集・発行/長崎日英協会 (株式会社長崎経済研究所内)

住所: 〒850-8618 長崎市銅座町1-11 十八銀行本店7階

担当者: 安田・岩永

TEL: 095-828-8859 FAX: 095-821-0214